

日野市教育委員会 様

学 校 名 日野市立日野第一小学校
校 長 名 小川 真由美

令和6年度教育課程について（届）

このことについて、日野市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

（1）学校の教育目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を基底として、自律的・協同的に行動し、未来をひらき持続可能な社会の担い手となる自覚と資質・能力を備えた心身ともに健康な人間の育成を目指すために次の目標を設定する。

◎かしこい子（すすんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子供）

○やさしい子（自他の命を大切にし、よりよく生きようとする子供）

○元気な子（心も体も健康で、粘り強く行動する子供）

（2）学校の教育目標を達成するための基本方針

日野市が進める「第4次日野市学校教育基本構想」に基づいて、安心して過ごせる校内外の環境の中で、持続可能な社会の担い手として、これからの社会を主体的に生きていくための基盤を育む。そのために以下のことを教育活動の重点とし、「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」を育成し、学校教育目標の実現を図る。

ア かしこい子 … 持続可能な社会の担い手として生きる力を育む教育活動を充実する。

- ・UDL による授業改善を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の習熟を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・生活科及び総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学習を通して、汎用的な知識・能力を身に付けさせる。

イ やさしい子 … 自他の命を大切にし、自他のよさを生かし合う教育活動を充実する。

- ・教育活動全体を通して自他の生命を尊重し、思いやる心情を育て、豊かな心の醸成を図る道徳教育を充実する。
- ・特別支援学級、特別支援教室における個に応じた指導・支援を一層充実させるとともに、通常の学級に在籍する配慮を要する児童への組織的な支援を充実する。

ウ 元気な子 … 豊かなスポーツライフや健康で安全な生活を実現する教育活動を充実する。

- ・体育の授業をより充実させ、運動の楽しさと課題解決の喜びを実感できる学習の実現を図る。
- ・健康で安全な生活を送る力の育成を目指し、そのための課題を解決する手だてを考えたり実施したりする教育活動を充実する。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

- ・「第4次日野市学校教育基本構想」の「安心できる学校プロジェクト」について年間を通して取り組み、学校が児童にとっての安心安全な場所となるような教育活動を充実する。
- ・今後のデジタル社会を生きる児童が、善き社会の担い手となるための資質能力を育むデジタル・シティズンシップ教育を推進する。
- ・スタートカリキュラムによる幼稚園、保育園からの円滑な接続、中学校との連携教育を推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ・基礎基本の確実な定着を図るため、学力調査結果や児童の実態を基に授業改善プランを作成し、実施状況を教員相互に確認する。指導と評価の一体化を目指し、振り返りを行うことで改善点を明確にし授業改善に繋げる。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現のため、児童が自ら学習課題を見出し、既習事項を活用しながら粘り強く学習に取り組み課題を解決していく学習活動を児童の発達段階に応じて行う。
- ・一人1台端末やICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。
- ・習熟度別指導や課題別指導、個別の課題に基づく学習支援の手だてを工夫し、児童一人一人の個性や特性に応じた指導を行う。また、UDLの視点から授業改善を行い、誰にでも分かりやすい授業展開を工夫する。

イ 特別の教科 道徳

- ・「生命尊重」、「親切・思いやり」、「希望と勇気、努力と強い意志」を重点内容項目とし、道徳科を要として全教育活動を通じて、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。多面的・多角的に考え、議論することを通して、児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業を工夫する。
- ・校内研究で道徳科に取り組み、講師を招聘して授業研究を行い、道徳教育推進教師を中心として組織的に道徳科の授業改善を図る。また、道徳授業地区公開講座を通して、家庭・地域と連携し、一貫性のある道徳教育の充実を図る。

ウ 外国語活動

- ・英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。ALTやMimmyアドベンチャーの外国人等の活用を通して、直接的な外国語でのやり取りの場を設定し、外国語や文化の理解を深める。

エ 総合的な学習の時間

- ・SDGsカレンダーを活用し、児童一人一人が自ら学習課題を設定し、探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決する力を養う学習活動を展開する。「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の探究過程を繰り返す学習を実施する。
- ・地域を学びのステージとして、地域の自然、文化、施設、人材等を活用した学習活動を充実させるとともに、学習したことを地域に還元しようとする学習活動を実践する。

オ 特別活動

- ・学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事を通して、より良い人間関係を形成する力、社会に参画する力、自己実現を図る力を育てる。
- ・異学年交流活動や学校行事、児童会による取組などを通して、高学年のリーダーシップを育成するとともに、学年・学級が異なる児童同士で楽しく触れ合ったり協力して取り組んだりして豊かな人間関係を育成する。
- ・児童が主体的に学び、自己実現の基盤を育むため、キャリアパスポートを活用して、学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行い、新たな課題に挑戦する活動を行う。

（２）生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ・「五つの約束」や「ひのいちスタンダード」を活用して、全教職員が共通理解のもと、同じスタンスで指導にあたり、保護者の理解と協力を得ながら規範意識や節度ある生活態度の育成に取り組む。
- ・様々な状況を想定した避難訓練や朝の安全指導、SOS の出し方に関する教育やセーフティ教室等の安全教育の実施を通して、児童が自ら危険を予測・回避し、SOS を出せる力を身に付けられるようにする。
- ・全教職員で「学校いじめ防止基本方針」に基づき一貫した指導を行うために、いじめ防止研修を実施し、内容の周知徹底と共通理解を図る。学校生活アンケートを年間５回実施し、実態を把握するとともに、いじめ防止対策委員会を中心に、児童一人一人に寄り添いながら、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に当たる。
- ・不登校の早期発見・早期対応のため、出席状況調査や家庭訪問等に基づいて児童の実態や変容を把握し、組織的・計画的に児童の支援に当たる。不登校状態の児童に対しては、SC や SSW 等と連携して組織的な対応の充実を図る。
- ・生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解させ命を大切にすることや、自分や相手、一人一人を大切にすることを発達段階に応じて身に付ける生命の安全教育に取り組む。

イ 進路指導

- ・社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けられるようキャリア教育の全体計画に基づき現在や将来に夢や希望を抱き、その実現を目指して人生を創造する力を育む。
- ・児童が自己の進路について、主体的に考え進学に対し希望がもてるよう近隣の中学校と連携を図る。

（３）特色ある教育活動

- ・「第３次日野市学校教育基本構想」の成果を基盤として、「第４次日野市学校教育基本構想」の「安心できる学校プロジェクト」に取り組み、学校・学年行事や学級活動の充実と一人一人が活躍できる場について工夫していく。また、不登校や登校渋りのある児童の居場所として別室登校支援教室「ふらっとルーム」について校内の共通理解を深め、充実を図っていく。
- ・GIGA スクール構想による ICT 機器の効果的な活用を通して、情報活用能力を育成するとともに、コンピュータやインターネットを適切に活用し、社会の一員として責任ある行動をとれるようにするためにデジタル・シティズンシップ教育に取り組み、自分で行動するスキルを身に付けられるようにする。
- ・「オリンピック・パラリンピック教育」で培われたオリンピック精神に基づき、「学校 2020 レガシー」としてスポーツを愛好する心情とともに、日本の伝統・文化の理解や障害者理解教育の充実を図っていく。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の指導体制を充実させ、個別の指導計画に基づく指導を進める。また、多様な個性についての相互理解を深め、共に生きる力を育てるために、特別支援学級との共同・交流学习、特別支援学校と連携した副籍交流を実施する。
- ・保育園や幼稚園での学びと育ちを生かし入学後の小学校生活の充実を図るためにスタートカリキュラムを実施し、合科的・関連的な指導を工夫する。また、第１学年児童の自己肯定感を高め、就学を目前にした園児に小学校生活への期待を育むために、直接的な交流活動を実施する。
- ・豊かなスポーツライフの土台となる力を育ため、すべての児童が運動の楽しさを実感できるよう、全校児童による体育的活動を取り入れる。また、がん教育をはじめ健康安全な生活に関する指導の充実を図る。